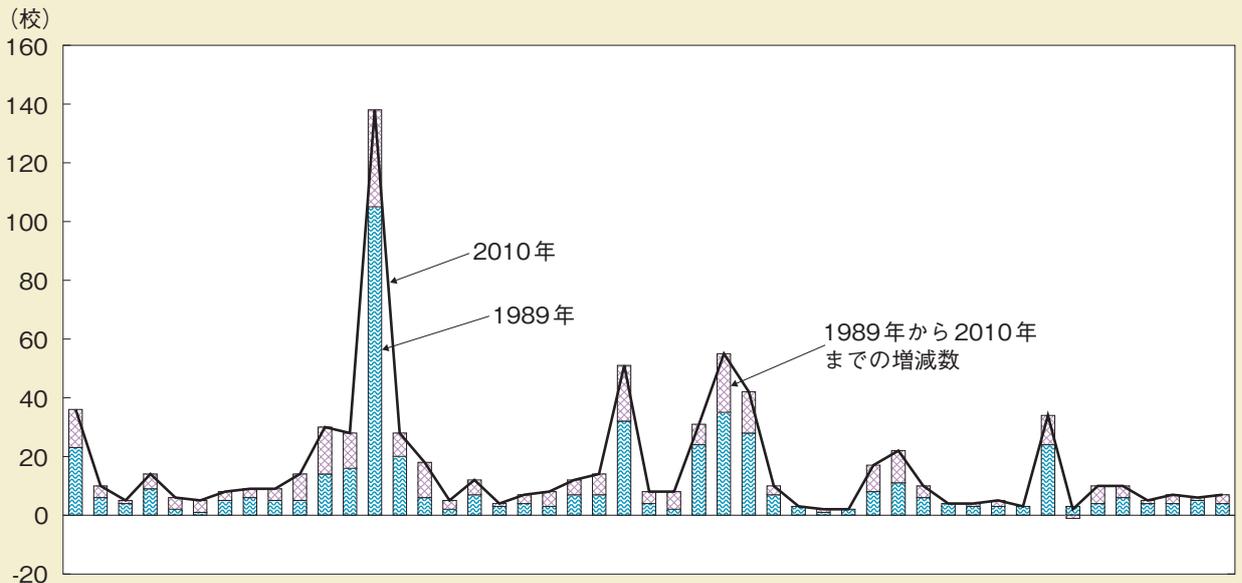


第2 - (2) - 25 図 都道府県別大学学校数の変化

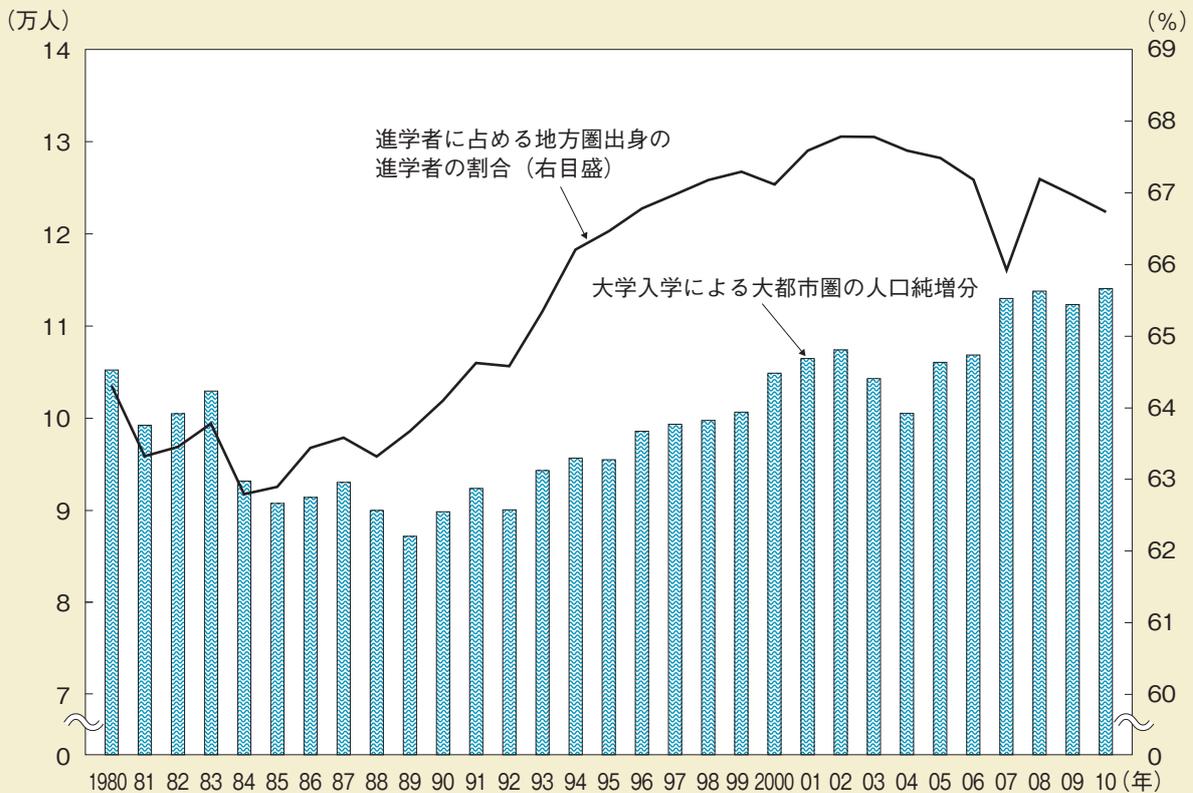


北青岩宮秋山福茨栃群埼千東神新富石福山長岐静愛三滋京大兵奈和鳥島岡広山徳香愛高福佐長熊大宮鹿沖
海道森手城田形島城木馬玉葉京川潟山川井梨野阜岡知重賀都阪庫良山取根山島口島川媛岡賀崎本分崎島縄

資料出所 文部科学省「学校基本調査」

- (注) 1) 数値は2010年と1989年を比較したもの。
2) 学校数は、大学本部の所在地による。

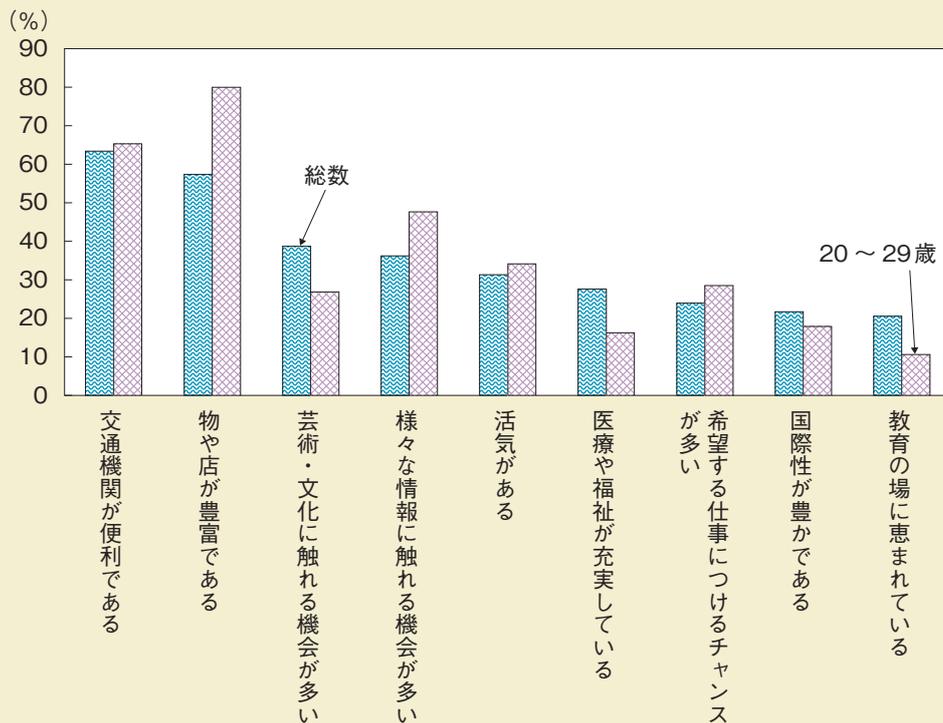
第2 - (2) - 26 図 大学入学に伴う地域間人口移動



資料出所 文部科学省「学校基本調査」

- (注) 1) 大都市圏は、ここでは東京、神奈川、愛知、京都、大阪を指し、地方圏はそれ以外を指す。
2) 地方圏出身者には、外国の出身も含まれる。
3) 大学入学による大都市圏の純増分 = 大都市圏の大学入学者 - 大都市圏の高校出身の大学入学者。

第2 - (2) - 27図 大都市圏に魅力を感じる点について



資料出所 内閣府「大都市圏の魅力に関する世論調査」(2010年)

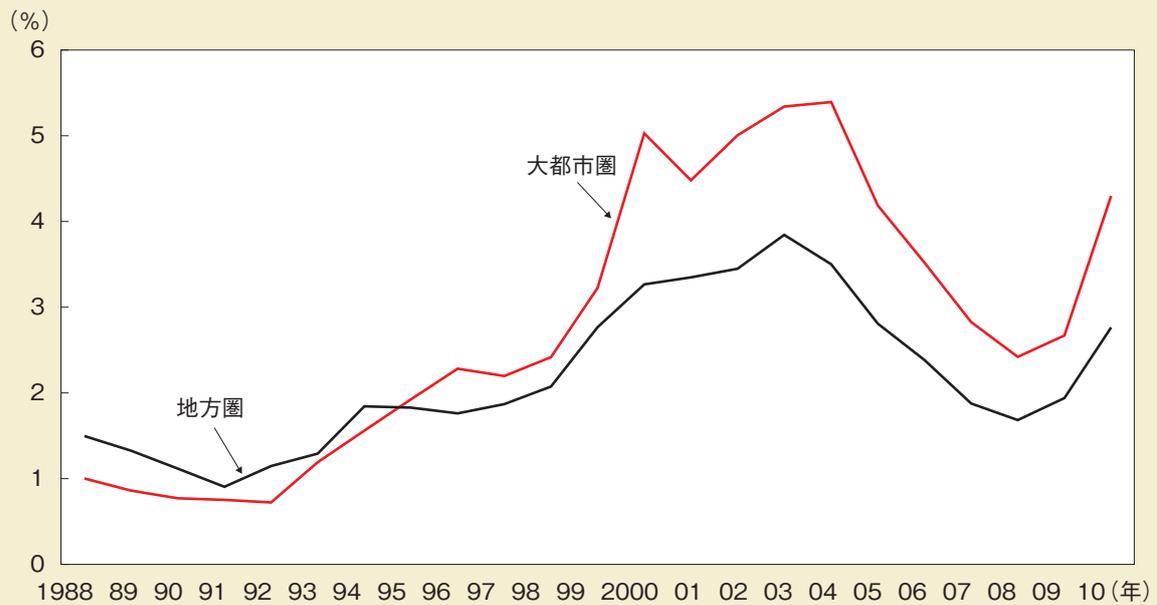
こともうかがわれる。

また、第2 - (2) - 28図により、卒業者に占める一時的な仕事に就いた者の割合をみると、1990年代後半以降、大都市圏は地方圏に比べ高い水準で推移している。必ずしも大都市圏の方が就職しやすかったり、安定的な仕事や希望の仕事に就けるというわけではなく、高等学校卒業時の進路選択は、将来の職業や就業地域の希望も含めて慎重に判断される必要がある。特に、地方圏では大都市圏に比べ就職にあたっての地元企業との結びつきは強いものとみられ、そうした地の利を生かした職業選択が改めて見直される必要もあると思われる。

(大学生の約半数は人文科学、社会科学関係学部へ所属)

第2 - (2) - 29図により、関係学科別入学者の状況を見ると、1970年代、80年代から人文科学と社会科学への入学者が目立つが、大学入学者数が大きく増加した1990年代において、人文科学や社会科学への入学者は増加し、入学者に占める割合も1985年の53.4%から1997年には57.3%へと上昇している。2000年代に入り、社会科学を中心に減少したが、2010年でも49.6%と約半数を占めている。理系学部の多くを占める理学と工学については、入学者に占める割合は1970年代から90年代までほぼ横ばい傾向で推移していたが、2000年代は低下している。保健やその他については、2000年代に入学者を増加させている。このように、近年ではその様相に変化がみられるものの、大学入学者は1990年代に社会科学や人文科学などの文系学科が中心となって増加してきたことがわかる。

第2 - (2) - 28図 地域別一時的な仕事に就いた者の割合



資料出所 文部科学省「学校基本調査」

(注) 1) 圏域の区分は第2 - (2) - 26図に同じ。

2) 数値は、卒業者に占める一時的な仕事に就いた者の割合。

(人文科学や社会科学の進路は相対的に不安定)

大学卒業後の主な進路である就職と進学について学科別の進路を比較すると、人文科学や社会科学では就職者が最も多く、進学者の割合は小さい一方、理学や工学では就職者も多いが進学者も多く、1990年代以降進学者数は大きく増加しているという特徴がみられる(付2 - (2) - 6表)。次に、第2 - (2) - 30図により、学科別に就職も進学もしない者の割合をみると、人文科学、社会科学、家政、芸術などの文系学科で高く、一方、理学、工学、農学、保健などの理系学科では相対的に低い水準である。こうした傾向は1990年代以降それほど大きくは変わっていない。

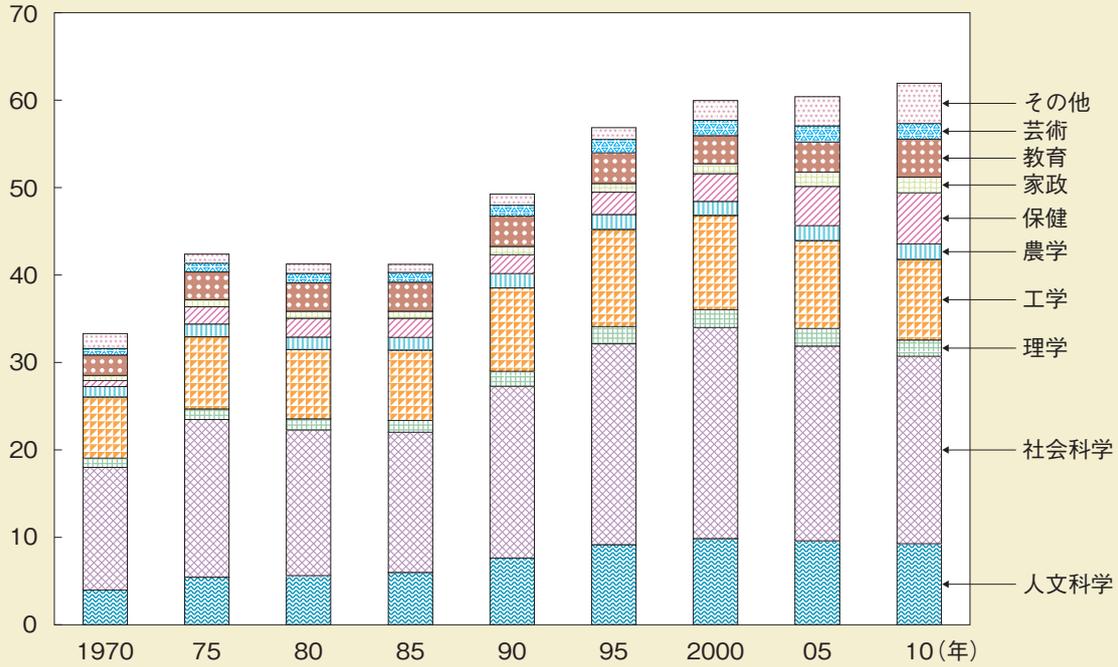
(入学動向と進学動向の違い)

第2 - (2) - 31図により、大学学科間の入学動向と就職動向の違いをみると、大学進学率が上昇した1990年代以降、指標は上昇傾向にあり、入学動向と就職動向の違いが大きくなっていることがわかる。今後、大学は、教育課程の内外を通じて社会的・職業的自立に向けて、教育課程上の工夫や有機的な連携体制の確保等、多様な取組を推進していることが期待される。

第2 - (2) - 29図 関係学科別入学者の状況

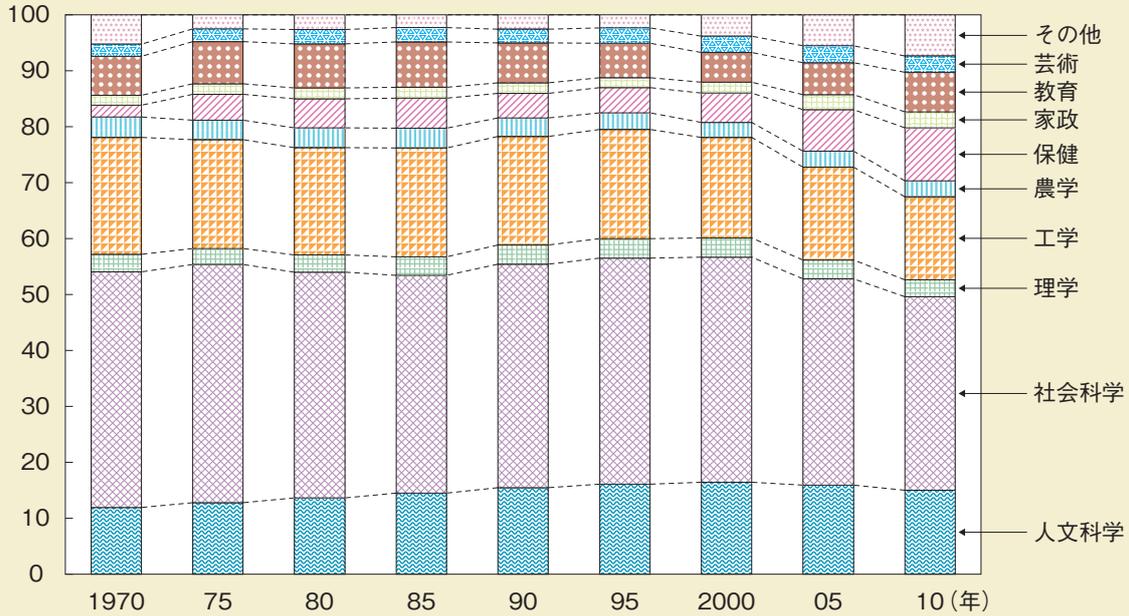
関係学科別入学者数の推移

(万人)



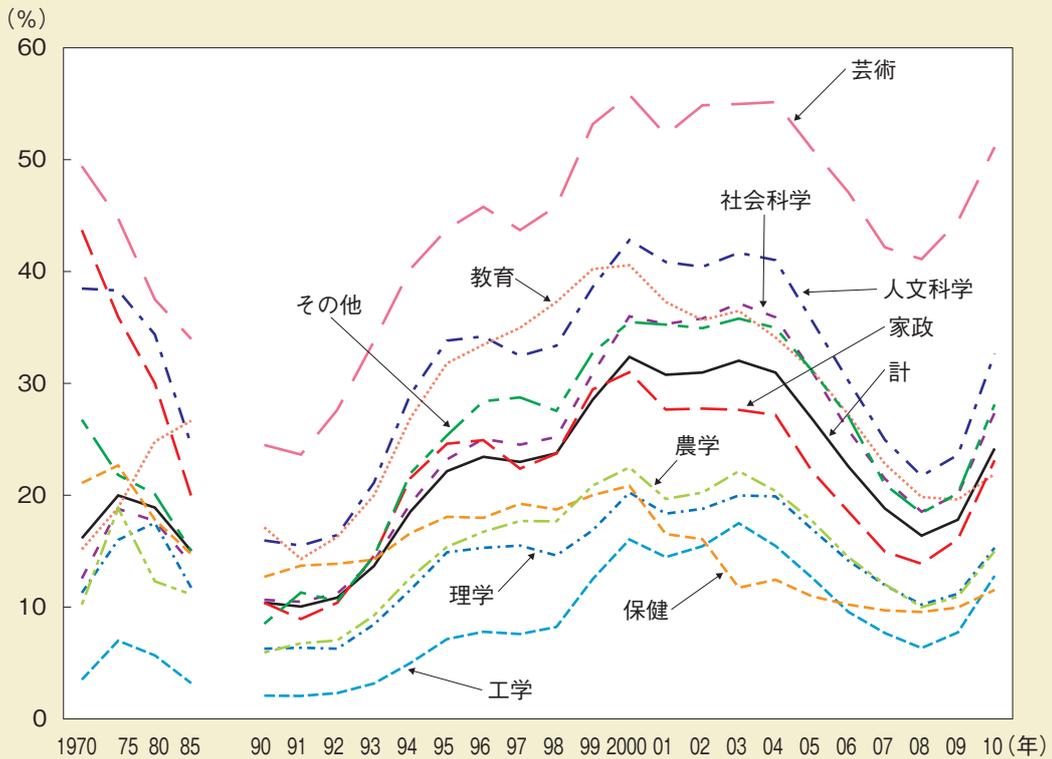
関係学科別入学者比率の推移

(%)



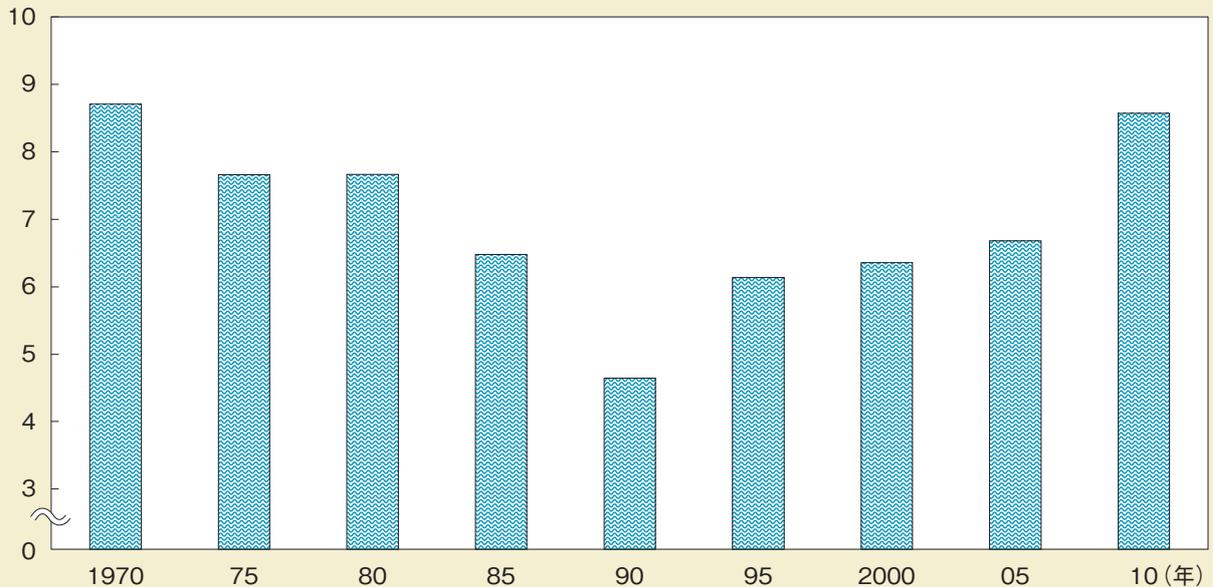
資料出所 文部科学省「学校基本調査」

第2 - (2) - 30図 就職も進学もしない者の割合（大学学科別）



資料出所 文部科学省「学校基本調査」をもとに厚生労働省労働政策担当参事官室にて作成
 (注) 数値は、卒業者に占める進学者、就職者、臨床研修医以外の者の割合。

第2 - (2) - 31図 大学学科間での就職動向と入職動向の違い



資料出所 文部科学省「学校基本調査」をもとに厚生労働省労働政策担当参事官室にて推計
 (注) ここでは、大学生の就職と入学の動向を比較した推計指標を用い、数値は、下記の式によって推計したもの。

$$X = \frac{1}{2} \sum |A_n - E_n|$$

X: 推計指標

A_n: 当該年の3月における全就職者に占める各学科の就職者割合 (%)

E_n: 当該年の4月における全入学者に占める各学科の入学者割合 (%)

n: 大学学科数 (人文科学、社会科学、理学、工学、農学、保健、家政、教育、芸術、その他)